

私たちの町の文化財

■第3話 熊本バンド奉教の碑

花岡山山頂の一角には、同志社創立九十年記念に寄贈された『熊本バンド奉教の碑』と刻まれた記念碑があります。熊本バンドとは、明治9(1876)年1月30日、熊本洋学校の生徒35人の有志が、キリスト教の教えに共鳴し、その思いを「奉教趣意書」という形で記し、ここ花岡山山頂上で祈禱会を開いたことに由来します。祈禱会には、幼い徳富蘇峰や横井小楠の長男である横井時雄も参加しました。熊本バンドという呼称は、同志社の宣教師がのちに名付けたもので、バンドとはグループを意味します。こうしたバンドは熊本のほかにも、内村鑑三を中心とした札幌バンド、植村正久を中心とした横浜バンドがあり、これらは明治時代のキリスト教プロテスタン派の3源流と言われています。

熊本バンドの青年達は熊本洋学校の出身でしたが、明治9年の学校閉鎖に伴い、創立直後の同志社英学校に転校することとなります。熊本バンド出身者は後に、牧師・教職・官公吏・政治家・ジャーナリストなどとなり、日本の近代市民社会形成に大きな貢献を果たしていくこととなりました。なお、毎年1月30日の朝には、ここ花岡山山頂上で記念祈禱会が行われています。

熊本市文化振興課 藤島志考氏

明治初期、熊本に、当時では珍しい男女共学で、しかも授業全てを英語で行なう学校があったとは驚きだモン

